

関東医学哲学・倫理学会

5月例会のご案内

関東医学哲学・倫理学会では、月例会を開催しております。今年度の年間テーマを「ヴァルネラブルな (vulnerable:弱き) 存在としての人間」と設定し、思想や倫理に関わるテーマはもちろんのこと、医療にまつわる諸問題や臨床現場での課題等、各分野の専門家による幅広い発表や議論が行われています。ご関心・ご興味がございましたら、どなたでも聴講自由です(参加費 300 円)。今回は、山本剛史先生を発表者にお迎えし、発症から 50 年目を迎えた戦後最大の食品公害事件とも言われている「カネミ油症事件」について御発表頂きます。

発表者： 山本剛史 先生 (慶応義塾大学)

演題： 「カネミ油症と生命・環境倫理学」

司会者： 小阪康治 先生 (元 郡山女子大学教授)

日時： 5/12 (土) 15:00~18:00

会場： 東洋大学 白山校舎 6217 教室 (6号館2階)

(詳細は右の東洋大学HP交通アクセス地図を参照) <http://www.toyo.ac.jp/site/access/access-hakusan.html>

発表要旨：

カネミ油症とは、1968年頃から(株)カネミ倉庫が製造したカネミライスオイルによる一連の中毒症状を指す。カネミ油症それ自体がすでに過去の問題として一般にはほぼ忘れさられているという点において、患者及び関係者は非常に追い詰められた状況にある。生命倫理学においてカネミ油症を扱う場合、まずは基本的事項に関する啓蒙が必要と考えられる。今回の発表では、日頃大学の講義で話しているのと同じスタイルでお話ししようと思う。これをきっかけに、カネミ油症について多くの人が関心を持ち、閉塞した事態の打開へとつながることを願っている。

関東医学哲学・倫理学会 HP 【 <http://pe-med.sakura.ne.jp/kanto/> 】